1Sa－2　　高等学校家庭科における住居教育の実態調査

○津嘉山典子　田中辰明
（お茶大）

「目的」　高等学校の家庭科教育の内、住居教育について教科書では全体でどの程度のページが割かれているか、先生方はどのような方法でどのような教育を行っているか、また学生はどのような教育を受けてきたかに関し調査を行った。
「方法」平成８年現在市販されている教科書について「住生活」にどの程度のページが割かれているかを調査した。家庭一般、生活一般、生活技術について調査を行った。また平成７年８月にお茶の水女子大学で行われた文部省産業教育指導者養成講座に参加された全国の高等学校家庭科担当教員を対象に住居教育に関するアンケート調査を行った。また平成８年にお茶の水女子大学に入学した学生の内137名を対象にやはり高等学校の家庭科でどのような住居教育を受けてきたかに関してアンケート調査を行った。
「結果」教科書は文部省平成元年１２月発行の「高等学校学習指導要領」に添い記述されており、どれも「住生活」に割かれているページは少ない。高等学校教員を対象とした調査では参加者76名の内学生時代に住居を専攻された先生は3名と少なく、住居教育に苦心されているという結果を得た。教員の方々が家庭科教育で一番力を入れておられるのは食物学が44％と突出しており次が家庭経営25％、住居学は0％であった。教員が住居教育で困っている事は1.資料（スライド、ＶＴＲ，模型、パソコンソフト）が少ない、2.専門知識の不足、3.生徒の住環境に差がある事等があげられた。お茶の水女子大学学生を対象とした調査では住居教育に割かれた時間が少ない事、使用された教材としては教科書が一番多く、他に住宅の広告、プリント、ビデオ等であった事等があげられた。